

すごい？やばい？超？鬼？

早稲田大学教授 森山卓郎 もりやま たくろう

先日、学生たちと印度料理店にカレーを食べに行った。学生の反応は、程度表現のオンパレードだった。「やばい辛い」「超辛い」「めっちゃ辛い」「マジ辛い」「鬼辛い」など、いろいろある。では、一番辛いのってどれ？

そこで、程度対決のアンケート調査をした（6月、私の授業の受講学生68人が対象。数字は煩瑣なのでパーセントで示す）。まず「めっちゃ辛い」対「めっちゃくちゃ辛い」では、「めっちゃくちゃ」の方が高程度という回答が多かった（79%）。本来の長い形の方が高程度だ。「めっちゃくちゃ勉強した」子の方が「めっちゃ勉強した」子よりも頑張っていることになる。あ、「めっちゃくちゃ勉強」だとだめですけど。

「やばい辛い」対「すごい辛い」では、72%が「やばい」の方が辛いと回答した。「やばい」は、もともと、「危険状況」にも通じる言葉だ。だから、「すごい」

よりも身に迫る点で程度が高いのだろう。「すごい」も本来は「ぞっとする」感じというとびきりの程度表現だったが、もはや「やばい」に負けてしまった感がある。追加調査（80人）で「超」と「やばい」を比べたが、面白いことに各々44%ずつの引き分けだった（同じ）も10%）。

では、「鬼」対「超」はどうか。結果は94%が「鬼辛い」の方が辛いということだった。「鬼」は「超」を超えている。追加で、「鬼」と「やばい」も比べたが、やはり89%が「鬼」の方が「やばい」よりも辛いと答えた。「鬼」って、マジやばそう！

文法的な使い分けも見た。「マジ辛い」と「マジで辛い」では、どちらが辛いでしよう？ 82%が「マジで」の方が辛いとの回答だった。「マジで」の方が本来的な形だが、より真実味があるのだろうか。前述の、本来的な「め

っちゃくちゃ」の方が程度が高かったのとも通ずる。ただ、「すごく辛い」対「すごい辛い」では微妙で、より辛いとして本来の形容詞連用形の「すごく辛い」を選んだのは29%だった。「すごい辛い」の22%よりも特別多いわけではない。どちらもすぐくはあるのだが。

しかし、「やばい辛い」は別格。本来形容詞だったはずなのに、そもそも「やばく辛い」とはあまり言わない（言えるとしたのはわずか7%）。構文意識として、「やばい。辛い」のように終止形で言い終わる構造だと意識する者すら38%あった。「やばい」は、もはや、ただの形容詞ではなくなっている。

さて、皆が辛さに悲鳴を上げる中、私は「そんなに辛いかな？」などと落ち着きはらってカレーを美味した。以前一人「超絶鬼辛い」のに挑戦してすっかり怖気づいていたおじさんは、しっかり甘口を注文していたのだった。